



平成 21 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 太平洋セメント株式会社
代表者名 代表取締役社長 徳植 桂治
(コード番号 5233 東証第 1 部、福証)
問合せ先 IR 広報部長 塚原 宏
(T e l 0 3 - 6 2 2 6 - 9 0 1 8)

子会社（株式会社日本セラテック）の通期業績予想（連結・個別）
の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社日本セラテック（コード番号 5 3 4 5）は、別添資料の通り平成 21 年 3 月期の通期業績予想（連結・個別）を修正いたしましたので、お知らせいたします。

なお、当修正に伴う当社の連結業績への影響は軽微であります。当社の連結業績予想につきましては現在精査中であり、見通しが明らかになった時点で改めて公表いたします。

以 上



平成 21 年 2 月 9 日

各 位

宮城県仙台市泉区明通三丁目 5 番
株式会社日本セラテック
代表取締役社長 武井 明
(コード番号: 5345 東証第一部)
ただし上記は登記上の本店所在地であり、
実際の業務は下記の場所で行っております。
宮城県仙台市泉区明通三丁目 24 番地 1
問い合わせ先 経理部長 宇野 信一郎
電 話 番 号 022(378)9231(代表)

通期業績予想の修正、繰延税金資産の取崩し
並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 11 月 7 日に公表した平成 21 年 3 月期の連結業績予想及び平成 20 年 5 月 12 日に公表した個別業績予想並びに平成 20 年 11 月 7 日に公表した期末配当予想をそれぞれ修正するとともに、繰延税金資産の取崩しにつきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 21 年 3 月期 連結業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,000	350	170	100	1,271.91
今回修正予想 (B)	9,500	1,150	1,350	1,850	23,530.31
増減額 (B - A)	3,500	1,500	1,520	1,950	-
増減率 (%)	26.9	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 3 月期)	12,383	485	270	226	2,876.44

平成 21 年 3 月期 個別業績予想の修正 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,300	350	170	100	1,271.91
今回修正予想 (B)	9,300	1,000	1,200	1,700	21,622.45
増減額 (B - A)	3,000	1,350	1,370	1,800	-
増減率 (%)	24.4	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 3 月期)	12,010	491	279	245	3,125.34

修正の理由

当社の主要顧客は半導体製造装置業界、液晶製造装置業界、電子部品業界であります。半導体製造装置業界は、昨年度下期から今年度上期にかけては受注回復の傾向があり、今年度下期には本格的に受注回復するものと期待されておりました。また、液晶製造装置業界は、今年度より受注回復し、その傾向が続くものと予想されておりました。しかしながら、米国発の金融市場の激変にはじまった世界的な同時不況のなか、半導体・液晶・電子部品業界は、最終需要の低迷を受け、設備投資の延期や中止を行い、工場の稼働を停止する等、減産体制に向かって急速に動いております。このため、半導体製造装置業界、液晶製造装置業界、電子部品業界の受注は大幅な減少となっております。特に、半導体製造装置業界は影響が大きく、前年比5割に近い受注減が予想される状況となっております。このような経済環境の激変により、顧客のフォアキャストの減少が相次ぎ、当社の売上高、利益ともに、計画比で大幅な減少となる見込みとなりましたので、通期業績予想を下方修正いたします。

なお、事業の種類別セグメントの連結業績予想は、下記のとおりです。

	構造セラミックス	圧電セラミックス	MMC	連結
売上高	百万円 5,100	百万円 1,700	百万円 2,700	百万円 9,500
営業利益(は損失)	1,180	0	30	1,150

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 繰延税金資産の取崩し

当期の業績見通しを踏まえて、繰延税金資産の回収可能性を再検討し、その一部を取り崩すことといたしました。その結果、当第3四半期連結会計期間において税金費用 288 百万円を計上いたしました。

3. 期末配当予想の修正について 修正の内容

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想	-	1,000円00銭	1,000円00銭
今回修正予想		0円00銭	0円00銭
当期実績	-		
前期(平成20年3月期)実績	-	3,000円00銭	3,000円00銭

修正の理由

当社は今後の事業拡大と財務体質の強化を図るために必要な内部留保を確保しつつ株主へ利益還元することを経営の重要課題の一つと位置付けており、業績に応じた配当をすることを基本方針としております。今期は、上述のとおり当期純損失となる見通しでありますので、誠に遺憾ながら、期末配当を無配とさせていただきたいと存じます。

株主の皆様には深くお詫びを申し上げますとともに、今後復配を目指し、利益を計上するべく、人員体制・生産体制を抜本的に見直す等、損益分岐点の引下げに全力を尽くしてまいりますので、引続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の業績はさまざまな要因で予想数値と異なることがあります。

以上